

雪氷写真館⑨ 北アルプスの多年性雪渓と氷河 (2013 年 10 月) /
The perennial snow patches and active glaciers in the
Northern Japanese Alps (October, 2013)



写真 1 劔岳, 三ノ窓氷河と小窓氷河.



写真 2 劔岳, 池ノ谷右俣雪渓.



写真 3 劔岳, 劔沢と平蔵雪渓, 長次郎雪渓.



写真 4 立山, 御前沢氷河と内蔵助雪渓.



写真 5 鹿島槍ヶ岳, カクネ里雪渓.

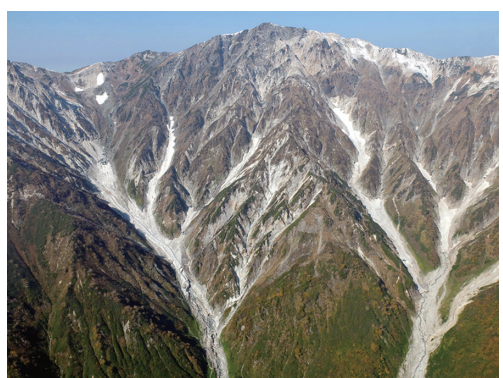


写真 6 白馬岳, 白馬大雪渓.

北アルプスの多年性雪渓と氷河 (2013 年 10 月)

北アルプスには、多年性雪渓や氷河が多く存在することが知られている。富山県立山カルデラ砂防博物館では、今秋の北アルプスの残雪状況を把握するため、2013 年 10 月 14 日に空撮を実施した。このうち特に規模の大きな多年性雪渓や氷河について写真で紹介する。

写真 1 劔岳、三ノ窓氷河（左）と小窓氷河（右）。60 m に及ぶ厚い氷体と 1 ケ月で 30 cm の流動が確認され現存する氷河と認められた（福井・飯田, 2012）。今秋は残雪が多く表面に氷体は露出していないが、クレバスが見られる。

写真 2 劔岳、池ノ谷右俣雪渓。厚さ 40 m の氷体を確認され（福井・飯田, 2013）、現存する氷河である可能性が高い。

写真 3 劔岳、劔沢雪渓（左）と平蔵雪渓（中央）、長次郎雪渓（右）。劔沢雪渓は残雪面積が大きいが集水域が広いため水量が多く、下部から氷体の融解が進みやすい。このため厚い氷体は存在しにくいと考えられる。長次郎雪渓、平蔵雪渓は劔沢雪渓や三ノ窓氷河と比較すると規模が小さい。

写真 4 立山、御前沢氷河（左）と内蔵助雪渓（右）。カール地形に分布し共に厚さ 30 m の氷体を持つ。御前沢では氷体の流動が確認されている。

写真 5 鹿島槍ヶ岳、カクネ里雪渓。五百沢（1959）が氷河の特徴を持つことを指摘した。厚い氷体やクレバスを持ち流動している可能性も高い。

写真 6 白馬岳、白馬大雪渓。残雪面積は大きい集水域が広く水量が多いため下部より融解が進むと考えられる。氷体は確認されていない。

他にも、後立山連峰では唐松沢、不帰沢、杓子沢等に、立山連峰では毛勝山周辺の毛勝谷、大明神谷、中谷等に規模の大きな多年性雪渓が存在している。北アルプス南部では、穂高岳涸沢、槍ヶ岳天上沢等に多年性雪渓が存在するが、北部と比較すると分布は少ない。

文 献

福井幸太郎・飯田 肇, 2012: 飛騨山脈、立山・劔山域の 3 つの多年性雪渓の氷厚と流動—日本に現存する氷河の可能性について—。雪氷, **74**, 213-222.

福井幸太郎・飯田 肇, 2013: 劔岳池ノ谷右俣の多年性雪渓の氷厚と流動。2013 年日本地理学会春季学術大会予稿集。

五百沢智也, 1959: カクネ里記。地理, **4** (8), 96-104.

飯田 肇・福井幸太郎（立山カルデラ砂防博物館）